赤羽別院報　第55号
発行所
真宗大谷派
赤羽別院　親宣寺
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX（0563）72－2308
Eメール
akabane_betuin@katch.ne.jp

蓮如上人御絵伝の世界

鹿子御影・生母別離

蓮如上人三河御巡化五五〇年を機縁として、「土呂の蓮如さん」で知られる浄専寺に伝わる「蓮如上人御絵伝」全四幅の世界を読み解き、お話ししてみたいと思います。

御絵伝は原則、下段の場面から順次、上段の場面へと、画をご覧いただき、隣の二幅目に移った時も下段から上段へとご覧いただく構成です。

ここには、御絵伝を仰ぎ見るという意味が込められているように考えられます。

第一段の場面は「鹿子御影」です。それは実の母との別れに関するエピソードです。

蓮如上人は一四一五（応永22）年、京都の東山にある大谷本願寺において、存如上人と、本願寺に仕えていた女性との間にお生まれになります。上人六歳の時、一四二〇（応永27）年、父の存如上人が正室を迎えられることから、上人の母は本願寺を去ります。その際に、当時流行っていた赤い鹿子の着物を上人に着せ、その姿を絵師に描かせます。できあがった「鹿子御影」を形見に持ち、十二月二十八日、本願寺の後堂から去って行かれたといいます。上人の幼名は布袋丸であったとされますが、御絵伝には去り行く母に「待って…」というように布袋丸が手を伸ばしている姿が描かれています。

ところで、蓮如上人がお生まれになられた頃、近江国の石山寺のご本尊である如意輪観音菩薩の姿が見えなかったといいます。それが、上人の生母が本願寺を去られた後、観音菩薩の姿がまた見えるようになり、そしてその観音様の隣には「鹿子御影」が掛けられていたということです。

第二段は、石山寺の堂内に掛けられた「鹿子御影」つまり、上人の生母は観音菩薩の化身で、本願寺にいらして上人をお生みになられたのだという伝承と、母への想いとともに真宗再興の志を立てられる幼い上人が描かれています。

比叡山修学と如光の活躍

蓮如上人は十七歳の時、青蓮院門跡で得度されたと伝えられております。諱は兼寿。第三段「出家得度」の場面では、剃刀を持つ人が描かれ、親鸞聖人の御絵伝の同場面を踏襲しています。得度された上人は、比叡山で学ばれます。「比叡山修学」の画は、金森の弥七が比叡山の上人を訪ねられている場面です。暗い中、月明かりが雪に反射する光で書物を読まれていたといいます。熱心に学ばれていた上人の姿がうかがえます。

第四段は本願寺の後継ぎとして東国の親鸞聖人御旧跡をめぐる場面が描かれます。

そして、蓮如上人は四十三歳の時に本願寺を継職されます。十字名号を本尊として授与する布教を行い、金森の弥七改め道西、堅田の法住ら多くの人たちが浄土真宗の教えに帰依していきます。しかし、これを比叡山の僧侶たちはよく思いませんでした。彼らは、上人五十一歳の一四六五（寛正6）年、大谷本願寺を破却してしまいます。いわゆる「寛正の法難」です。その様子が御絵伝では第一幅第五段と第二幅第一段にわたって描かれ、上人の重大な危機であったことが示されます。

ここで注目したいのは、三河国佐々木の如光の活躍です。油ヶ淵の水面から生まれたと伝説される如光は、後に三河三ヶ寺の一つである上宮寺に入って住職になります。一四六〇（寛正元）年には上人から十字名号を授かり、本願寺門徒となっていました。

如光は船を操り、物や人を運ぶことを生業とし、豊かな経済力を持っていました。その如光が上人の危機に三河から駆けつけ、お護りされたと伝えられています。

ある記録では、比叡山の僧侶の本音は金銭の要求にあったため、如光は、金銭ならば三河から「足にふませるぐらい」持ってこようと豪語して用意したそうです。また、比叡山にあがって僧侶たちと交渉し、十字名号本尊を取り返してきたともいわれます。

三河門徒が本願寺を護持し支えた重要なエピソードがこの「寛正の法難」でした。

嫁威肉附面

第二段は、蓮如上人が近江国三井寺（園城寺）の南別所近松坊舎に親鸞聖人の御真影を預け、北陸へ向かわれる場面です。そして、上人五十七歳の一四七一（文明3）年、吉崎に坊舎を建立されました。第三段は旅中の伝承と吉崎を発見される上人が描かれます。

第四段に描かれるように、吉崎御坊にも多くの参詣があり、その人たちに、上人は名号や御文をお渡しされます。

蓮如上人吉崎伝承で最も有名なのが「嫁威肉附面」でしょう。蓮如上人に帰依したある篤信の嫁がおりました。この嫁が毎晩、上人の教えを聞きに吉崎まで出かけるのをよく思わなかったのが姑で、懲らしめてやりたいと考えます。第四段右に描かれているのは、姑が鬼の面を附け般若となって、吉崎参詣の夜道を歩く嫁を驚かせようとする場面です。しかし、嫁は念仏の信心によって驚きません。

口惜しがった姑は鬼の面を外そうとしましたが、これが外れません。嫁が家に帰ると、姑が布団をかぶってうなっています。心配した嫁の尋ねに観念した姑はすべてを白状します。そこで、二人して蓮如上人を訪ね、一部始終を話して、懺悔し、念仏申したところ、面が姑の顔から外れたという場面が第五段右です。

本光坊腹籠の御聖教

第五段左が後の加賀一向一揆につながる場面で、第三幅第一段に描かれるのが、これまた有名な「本光坊腹籠の御聖教」です。

吉崎御坊の本堂が火災に遭ってしまい、外に逃げた上人が堂内に親鸞聖人直筆の『教行信証』『信巻』を忘れたことに気づきます。それを聞いた本光坊了顕という僧が火の中に飛び込みます。焼け跡にうつぶせになって倒れていた本光坊の亡骸を抱き起こすと、腹部に「信巻」を大切に抱えて守っていたそうです。「信巻」は無事でしたが、本光坊の死を悼み、悲嘆する蓮如上人でした。

第三幅第二段は、ついに加賀一向一揆が起こってしまい、蓮如上人が吉崎を退去する場面です。第三段は若狭国での女人教化を描き、その後、上人は畿内に戻られます。第四段右は河内国出口における大蛇済度の場面です。

蓮如上人に残された悲願は、本願寺再興でした。

本願寺再興から往生まで

第四段左は金森道西が山城国山科の地を勧める場面、最上段は山科本願寺建立の場面です。一四八〇（文明12）年に御影堂が建立され親鸞聖人の御真影をお迎えしています。

最後の四幅目は、一四八九（延徳元）年に七十五歳で隠居され、往生されるまでの物語が描かれていきます。

第一段左は夜に聖教を読まれる蓮如上人を覗き見た慶聞坊龍玄が上人に後光があるのを見た場面、左は大陸から山科本願寺を訪れた契丹人に教えを説く場面です。

第二段は聖徳太子に導かれ、一四九六（明応5）年に大坂御坊を建立する場面です。

第三段は話が四つもあります。右から一つめは、慶聞坊に御文拝読をお願いし、それを聞いた上人が「自分で作ったものだがすばらしいものだ」と述べます。それは仏の金言を伝えるものだからです。

二つめは、龍より放った鶯が「ホーホケキョ」「法を聞けよ」と鳴くと上人が讃嘆し、法専坊空善が感じ入ります。

三つめは、上人が愛でていた馬を召し寄せ、今生の別れをする場面です。馬は座して涙を流し悲しんでいます。

四つめは、加賀一向一揆の原因をつくったとして吉崎退去時に破門した下間安芸蓮崇を病床に呼び許す場面です。

そして、一四九九（明応8）年三月二十五日、蓮如上人が八十五歳で往生されていく場面を描くのが第四・五段です。

以上、御絵伝を通して蓮如上人のご生涯と数々の伝承にふれ、浄土真宗の教えに出遇った人たちの歴史を学ぶご縁をいただきました。

平成30年3月26日
赤羽真宗講座
安藤弥師講話要旨

■講師プロフィール
安藤 弥（あんどう わたる）
1975（昭和50）年生まれ。
岡崎教区第7組浄専寺候補衆徒。
真宗大谷派擬講。
名古屋大学文学部史学科卒業。大谷大学大学院文学研究科仏教文化専攻博士後期課程修了。博士（文学）
現同朋大学文学部仏教学科教授、同朋大学仏教文化研究所所長。
主な研究業績として『大系真宗史料 文書記録編13儀式・故実』ほか。

別院行事のご案内

夏の御文（げのおふみ）
7月15日（日）午後1時30分
法話　第13組　慶徳寺　法輪　篤師

赤羽ブロック世話方会総会
7月15日（日）午後3時

暁天講座（ぎょうてんこうざ）
8月25日（土）午前6時
講師　第11組　恵教寺　大河内　真慈師
8月26日（日）午前6時
講師　第18組　福万寺　戸松　壽仁師

秋季彼岸会（しゅうきひがんえ）
9月22日（土）午後1時30分
法話　第15組　随厳寺　安藤　誠也師
9月23日（日）午後1時30分
法話　第8組　福正寺　本多　友明師

みどう公演
9月23日（日）午後3時
演目　衣ヶ浦の民話と油ヶ渕の大蛇
演者　中村かつら師

助音講（じょいんこう）
報恩講助音・お勤めの稽古
9月1日15日29日（三日とも土曜日）
講師　第8組　宿縁寺　織田　顕慶師

報恩講に向けて清掃奉仕
教化センタースタッフ
赤羽ブロック世話方会　合同
10月6日（土）午前7時～午前9時

報恩講（ほうおんこう）
10月14日（日）午後1時30分
法話　名古屋教区 正林寺 犬飼 祐三子師
10月15日（月）午前10時・午後1時
法話　第7組　浄専寺　安藤　傳融師
10月16日（火）午前10時・午後1時
法話　第13組　明榮寺　小谷　香示師

晨朝法話（じんじょうほうわ）（午前七時）
7月13日（金）第13組 養林寺 東脇 芳幸師
7月28日（土）同 隆勝寺 小原 隆已師
8月13日（月）第14組 平等寺 齋藤 正師
8月28日（火）同 東正寺 石川 倫生師
9月13日（木）第8組 安樂寺 伊奈 恵祐師
9月28日（金）同 福正寺 本多 友明師

帰敬式を受けましょう

仏弟子として歩むよろこび
十九名が帰敬式受式

本年4月11日、赤羽別院お御堂において帰敬式が執行され、19名の新たな仏弟子が誕生しました。

はじめに、真宗宗歌斉唱と三帰依文の唱和があり、続けて「剃刀の儀」では、本山鍵役・信悟院殿が、新たな仏弟子となる受式者お一人おひとりにゆっくりと「おかみそり」をされました。

「おかみそり」とは、頭に三度刃をあてることで「勝他・利養・名聞」という、三つのもとどり（他人を軽んじ、財産や名誉にこだわる生き方）を剃り落とし、仏様の教えを依りどころとして生きる者となることを表す儀式です。

この日の「おかみそり」も受式者の緊張感が伝わるような静かな時間となりました。

全員の「おかみそり」が済み、次に受式者お一人おひとりの法名が鍵役より手渡される「法名伝達」が行われました。

剃刀の儀

誓いの言葉

執行の辞では「この度は、おめでとうございます。日頃より法名を名告り、仏弟子としての道を歩まれますとともに、真宗の法義相続と宗門の護持に御尽力下さい」と鍵役がご挨拶されました。

さらに、第9組長興寺所属の、釈尼千代（加藤千代美）氏が誓いの言葉を述べられ、受式者を代表して、仏弟子としての歩みを誓われました。

最後の一同合掌・恩徳讃斉唱では、受式者全員の力強い声が堂内に響き渡り、お念仏の声からは、共に仏弟子として歩んでいく喜びと決意が感じられるようでありました。

受式者一同

帰敬の意を訪ねる
帰敬の集い開催

本年3月29日、赤羽別院にて「帰敬の集い」が開催された。

「帰敬の集い」は、帰敬式の受式を予定している者が一同に集まり、帰敬式とはどういう儀式なのかを聞きあう場である。

当日は受式者19名のうち、16名が参加し、全員が受式に至ったお気持ちと経緯をお話された。

その後は、一同で『正信偈』のお勤めをし、帰敬の意と、実際に式がどのような流れで執行されるのかを確認した。

最後は一昨年に夫婦で受式をされ、法名・釈浄修をいただかれた厳西寺門徒の外山修氏より感話をいただいた。

外山氏は受式した感想を、五・七・五の十句にまとめられ「おかみそり　心新たに　桜咲く」等わかりやすく参加者にお伝えされた。

終わりには、現在の心境を本山発行の日めくりに載っていた「どうする　どうする　いまのまんまで　いいのかね　どうする　どうする」という言葉で締めくくられ、参加者一同が帰敬式受式への気持ちを改めて確かめさせられた様子であった。

外山氏の感話

帰敬式を受式して

第9組　加藤千代美

平成30年4月11日の春の良き日、赤羽別院にて「釈尼千代」という法名を戴きました。

今日からは、たとえ進むべき道に迷った時も、悪い心が生じた時も、いつも心の中に仏様を思い浮かべ、仏様の光に導かれるままに真っ直ぐ進んで行きたいと思います。

いろいろな経験を重ねていく中で、人に優しくなり、自省する心を忘れずに、法名とともに生きることを大切にしていきます。

有り難うございました。

大賀光範師の法話
報徳会厳修

桜も散り、春の肌寒さを感じた去る4月11日、赤羽別院御堂にて、午前11時より帰敬式が執行されました。

お斎を頂き、午後1時より鍵役・信悟院殿ご参修のもと、報徳会の法要が厳修され、堂内にお念仏の声が響き渡った。

引き続いて、鍵役より「このご縁を大切に益々聞法生活に励まれることで、浄土往生への道が開かれます」とのお言葉を賜った。

休憩の後、三重教区・浄圓寺住職の大賀光範師の法話を聴聞した。

冒頭「今、どこの国とは言いませんが、偉い人の空気を読む風潮が蔓延しています。あの件もこの件も…。空気は吸うものですよ」と笑いを誘いお話を進められた。

次に、教主と救主の二尊教については、お釈迦様の一生を綴った「八相成道」より四門出遊・初転法輪など、例えを用いて、わかり易く語って戴いた。

更に「私は思い通りになるのが大好きで、思い通りにならんのが大嫌いです。おまけに、人のことはどうでもいいと思っている人間です」と告白された仲野良俊師の言葉をユーモアを交え、紹介されるなど、教えに出遇い生きる大切さを学ぶ法縁となった。

寺院葬儀について
儀式部研修会開催

本年5月31日、岡崎教区第7組本宗寺住職・元三河別院一膳の堀田護師を講師におむかえし葬儀式研修会（テーマは寺院葬儀）がおこなわれ、雨天にも関わらず、40名を超える参加者が集まりました。

多くの参加者が集まる

堀田師はお葬式に限って導師という言い方をする理由についてお話されました。

本来、導師というのは真宗大谷派では式導師・経導師といい、礼盤に上がって式を執行される方を導師というのです。葬式の時には礼盤に上がっていません。登高座以外の時は調声人というのです。

それでは、なぜお葬式の時に導師というのでしょうか。それは他宗派に準じているのです。ここで間違えてはいけないのは時々、大導師・脇導師という言い方をしています。「大導師焼香」なんて言葉を聞いたことありますが、私達の宗派では本来、大導師・脇導師という言葉は使わないのです。他宗派に準じているのです。

参加者は熱心に聴聞され、多くの質疑応答が交わされました。次回は、7月27日に「一般葬儀」をテーマにおこなわれます。

法義相続・本廟護持
志貴野製瓦場紀念碑法要

去る6月5日、晴天の中で志貴野製瓦場紀念碑法要が執り行われました。

地元の方をはじめ第10組・第11組の門徒さんもバスを連ねて参拝され、多くの方が記念碑の前に集まりました。

勤行の後、安田岡崎教務所長の焼香に続き、志貴野製瓦場紀念碑保存会会長・各組組長・保存会役員・志貴野町内会長及び役員・各組門徒会長と焼香がすすみました。

安田所長は挨拶のなかで「初めて紀念碑法要を勤めるご縁をいただき、三河に生まれる者として、本山に奉職する者として震えながお勤めをしました。」と語られ、参列者一同が、この法要が継がれてきた重さを感じさせられるような場となりました。

護法有志を偲ぶ
殉教記念法要厳修

本年6月5日、赤羽別院で鍵役・信教院殿ご参修のもと、殉教記念法要が勤められた。これは、明治4年、新政府が、仏教でなく神道を中心に政治を進めようとした事に反対し、そして罪に問われた石川台嶺ら護法有志を偲び、その志に学ぶご縁です。

法話は、本多雅人師（東京都蓮光寺住職）に頂いた。

本多師の法話

師は、この大浜騒動が日本の宗教に大きな影響を及ぼし、やがて真宗の宗風が忘れられていったと話された。

今私たちは、思い通りになることが幸せという、思い込みの中で生きている。これこそが真宗においての迷いであり、私を苦しめる。病気や障害をいやだと思う分別（迷い）に気づいて初めて、阿弥陀様の声が聞こえてくる。ありのままの自分を受け入れて初めて、かけがえのない寿の世界が開ける。両手を左右に広げて「おおきな、おおきな世界がある」と、繰り返し言われたことが心に残ります。

過去の事件の追悼ではなく、今を生きる私への阿弥陀様からの願いを、この身にいただく法要でした。

仏前結婚式二話

瑞玄寺　山下　雄真氏　荒川紗貴子氏

週日3月17日、春をむかえ暖かな陽光の佳き日に第10組瑞玄寺にて、新郎山下雄真さん・新婦荒川紗貴子さんの仏前結婚式が行われ、新しい夫婦が誕生されました。

式は、雅楽の音色に導かれ、主役である新郎新婦が入堂され、清らかな空気のなか開式されました。

司婚者の法圓寺住職・石川祐美子師より、尊前にて成婚の表白文が拝読された後、司婚のことば・誓いのことばが述べられ、念珠の授与が行われました。

夫婦となり初めての共同作業ともいえる、内陣での焼香では、穏やかな雰囲気の中、雅な音楽を耳にし、結ばれた御縁を感謝をすると共にお互いに支え合い合掌礼拝していく生活の始まりを感じさせられました。

境内には、この佳き御縁に出会うお世話方さんをはじめ、沢山の方々がお祝いに駆けつけられており、あるご門徒さんは「新郎の入寺がとても嬉しく有り難い」とうっすら涙を浮かべて見えた。

又、ご住職は、三人の娘が瑞玄寺の本堂にて結婚式をあげることができた尊い御縁に深く感謝をされていた。

司婚のことば

正向寺　大渓　正浩氏　中村美由希氏

少し肌寒さを感じた4月14日、西尾市吉良町の正向寺において、住職・大渓正浩さんと中村美由希さんの結婚式が、源徳寺住職・藤原知貴師司婚のもと執行されました。

午前10時過ぎに花嫁を乗せたマイクロバスが到着し、花嫁はそのまま本堂に向かい、ご本尊の前で合掌し、お参りをすると、お披露目の場所である仏間に移り、嫁菓子を配る準備に入りました。

境内では開式30分前の合図の鐘が打たれ、花嫁姿を一目見ようとご近所の方々をはじめ、ご門徒方が集まり、徐々に境内が賑やかになっていきました。

定刻になると雅楽が奏でられ、新郎新婦入堂、司婚者も出仕して式が始まりました。

式杯では、総代のお孫さんと花嫁の姪御さんが式杯のお手伝いをなされ、式場に微笑ましい時間を添えてくれました。

式は緊張感を持ちながらも和やかな雰囲気の中、無事に執行され、最後は司婚者の藤原師より「ご夫妻が、これからも正向寺お同行衆と共に歩み、お念仏の生活を喜んでいかれることを念願しております。」と挨拶をされ、一同合掌をして、閉式となった。

雌蝶の姿に顔がほころぶ

池田勇諦師の法話
同朋のつどい開催

第10組

去る4月15日、午後2時より、組の基幹事業として三十年以上続く「同朋のつどい」を、志篭谷町蓮正寺を会場に、池田勇諦師をお招きして開催した。

師は、「私たちが仏法を聞く」といえば、精神論として仏法を聞いてしまうのではないかと言われた。

精神論とは、心の持ち方、心の在り方、心の状態を設える心の問題と捉える事。しかし、仏法は存在論。

私の心の依り処は「身」です。私の身の持つ謂われを明らかにする、身の持つ意味に気づくこと。身の持つ謂われは生老病死です。我々は、心が「主」、存在としての身を「従」と考えているが、実は身が主であり、心が従であると。

朝、鏡で顔を見ると、歳を重ねてきた私自身の身が壊れてきていることを知らされる。身は私の思い通りにはならない、日々刻々と老いている。存在としての身は、正直である。そのあたり、身は着実に生老病死にはこばれている。その一点を仏法は厳しく知らせてくださるのだと話された。

師の話を聞き留めたい参加者が遠近より参集され、本堂両余間までお入りいただき、総勢百十八名が真剣に聴聞された法座となった。

1400回忌お待ち受け企画
聖徳太子基礎講座

第11組

第11組では、2021年に聖徳太子の1400回忌を迎えるにあたり、西尾教会を会場に本年3月より、お待ち受け企画として聖徳太子基礎講座を開講した。

講座では、毎回参加者一同による正信偈に引き続き、和讃は皇太子聖徳奉讃をお勤めした。更に一同で十七条憲法をゆっくりと拝読した。

講義は、第一回～第三回を第7組浄専寺住職・安藤傳融師、第四回～第六回を同寺若院であり、同朋大学教授の安藤弥師が担当し、親子リレーによる講座となった。

傳融師は、身近な出来事を取り上げながら、聖典の言葉を丁寧に尋ねられ、聖徳太子のおこころをお話された。

弥師は『上宮太子御記』（親鸞聖人が編纂したという太子の伝記）を中心として、親鸞聖人の聖徳太子観を尋ねるとともに、私たちが今どのように聖徳太子観を持ちうるかということを確かめていかれた。

聖徳太子により伝えられた仏教を、今どのようにいただいているのか、じっくりと考えさせられる講座となった。

講義風景

桑名別院・西恩寺・専修寺を訪ねる
赤羽ブロック世話方会研修

去る5月31日、赤羽ブロック世話方会研修会が開催され、世話方44名が参加した。

はじめに桑名別院本統寺を訪れ、別院職員より「桑名別院は桑名の御坊さんの名で親しまれており、開基は教如上人の娘・長姫（9歳）です。また、空襲ですべての建物が灰燼と化し、親鸞聖人銅像は残りましたが焼夷弾の火花を被り笠に穴が開いている」と別院の紹介をしていただいた。

続けて、別院近くの西恩寺を訪れ総代さんのご挨拶を受けた後、池田勇諦師の法話を聴聞した。

池田師は「一にも二にも仏法の味を食べることです。食べた味を告白なさる。これ以外無いんですわ。お寺の世話方の唯一の仕事は仏法を食べること。その味を告白なさればいいんです。それだけです。」「そして仏法は自分自身の出会った事・出会った人・出会った言葉が私の思いを超えて私を動かしてく、聞こうと思うて聞けるもんじゃないですよね。」と熱く語られた。

最後は真宗高田派本山専修寺を訪れ、御影堂・如来堂を参拝。ガイドさんの案内で一身田寺内町を散策し、帰路についた。

日帰りではあったが、学びの多い充実した研修となった。

吉良の仁吉を偲ぶ
仁吉まつり開催

第9組　源徳寺

夏の日差しとなった6月3日、西尾市吉良町にある源徳寺を中心とした第38回仁吉まつりが開催された。

当日は、地域協力のもと数百メートルに亘り歩行者天国をつくり上げ、一万人以上の人を呼び、40以上の出店が賑わいを生み出した。

始めに源徳寺境内にある仁吉の墓前で読経を行い、関係者や参加者が墓前で手を合わせて、おまつりが始まった。

会場にはステージが幾つか設けられており、西尾市内にある各高校がクラブ活動で練習したダンスを披露したり、太鼓の演奏などを行い、場を盛り上げた。

また、物まね芸人や大道芸人、格闘家もそれぞれの特技を惜しむことなく披露されて大いに盛り上がっていた。

歩行者天国では、仁吉の旅装束に扮した男性を先頭に、法被を羽織り、威勢の良い吉良小唄のパレードも行われた。

常に賑やかなお寺や地域を作りたいと、地元青年部や商工会、各団体が協力をして築きあげた手作りで温かみのあるおまつりであった。

賑わう境内

住まいのクリーニング　見積り無料
西尾総合ホーム株式会社
清掃事業部　○ ハウスクリーニング　新築　古家
○ ビル　店舗　工場　全般
白アリ事業部　○ 白アリ予防駆除工事
○ 害虫防除工事
〒445－0063　西尾市今川町馬捨場１８－２
清掃事業部　TEL 0563－56－3289
白アリ事業部　TEL 0563－57－3656
Fax 0563－56－3676

さわやかな秋の旅は
ドラゴンズバック
名鉄観光バス直営店へ
蒲郡支店　0533-68-6141
西尾支店　0563-57-2062

集いの場　其の二

シリーズ「集いの場」では、赤羽別院崇敬区内で開かれている、各寺院の聞法会や同朋の会の様子をお伝えしていきます。

今回は、第14組・碧南市棚尾町の安専寺にて、毎月28日に行われている「おはちんち」を取材させていただきました。

安専寺のある碧南市棚尾地区は、ご門徒の多い地域で、親鸞聖人の御命日の28日にはお寺に集ってお勤めをするという文化が根付いています。「おはちんち」とは、「御忌28日」が訛って生まれた言葉だということです。

安専寺では、昔は当番の組の人たちが野菜を持ち寄ってお庫裡でお斎を作り、お参りの人たちがご飯を持ち寄り頂いたそうです。この形は伊勢湾台風で途切れ、「おはちんち」だけが残りましたが、一九九八年の蓮如上人五百回御遠忌の後、お斎が復活しました。

現在では、7月の子ども会の「はやおき会」と12月の報恩講以外の毎月28日に行われ、朝7時30分から、本堂で正信偈三淘六首引をお勤めし、法話を聴聞し、一緒にお斎をいただき、9時20分頃終了という日程で行われています。

お勤めでは主に報恩講で用いられるご和讃が毎月順番に勤められています。お斎は、1月はお雑煮デー、3・9月はお抹茶デー、6・8月はモーニングデーだということです。

また、5・10月は、希望者に対して帰敬式を住職執行のもとに行っており、これまでも仲間に見守られ、祝福される中で仏弟子が誕生してきました。

法話は、安専寺ご住職がされたり、他のお寺の住職・若院さんがされる月もあります。

取材に伺った5月28日は、14名の方がお参りにみえており、前住職・住職と一緒に正信偈を唱和され、「尊者阿難座よりたち」を三淘六首引でお勤めされました。

御文を拝聴した後、今月は住職の法話で、14組の教化テーマ「仏法聴聞・聞法の場に座りましょう」を手がかりに法話されました。

勤行の声が響く

モーニングの準備

揃っていただく

棚尾という地域は、朝散歩すると味噌汁の匂いと正信偈の声がすると言われてきたように、聞法の場に座ることは特別なことと考えず、お勤めの場に座ることが大切だと、皆さんが頂き直されていました。

取材日は、帰敬式を受式される予定の方がいましたが、欠席となってしまわれ、帰敬式はありませんでした。

法話に引き続き、お斎の準備です。同朋新聞に目を通した後、朱塗りのお盆で今回はモーニングデーでしたので、パンと淹れたてのコーヒーでお楽しみタイム。「おはちんち」で元気を頂き一日がスタートしました。

夏の勉強会の御案内

◇**第8組　同朋大会**
8月18日（土）午後7時30分　西浅井町　宿縁寺
8月19日（日）午前10時　午後1時　花蔵寺町　慶昌寺
今治市　善照寺　真城　義麿師

◇**第9組　夏期講習会**
吉良町乙川　了淳寺
8月24日（金）午前9時30分　午後1時　真宗大谷派教学研究所所員　鶴見　晃師
講　題　「現代の不安と真宗」
8月25日（土）午前9時30分　午後1時　シンガーソングライター　梁瀬　奈々師
講　題　「いのちのふるさとを考える」

◇**第11組　暁天講座**
各日　午前5時30分から　午前7時まで
8月17日（金）上矢田　浄徳寺
8月18日（土）順海　唯法寺
8月19日（日）西小椰　惠琳寺
8月20日（月）中　聖運寺
8月21日（火）山下　常照寺
8月22日（水）平坂　無量壽寺
8月23日（木）羽塚　惠教寺
8月24日（金）上　正念寺
8月27日（月）須田　浄賢寺
8月28日（火）中　善福寺
平成33年に聖徳太子千四百回忌をお迎え致します。第11組では、昨年に続き、暁天講座において、聖徳太子をテーマに学びを深めてまいります。

◇**第12組　夏期真宗講座**
菱池町　徳行寺
7月7日（土）午後1時30分
吉良町　教蓮寺　小野　正信師

◇**第13組　夏期真宗講座**
7月23日（月）午後1時30分
一色町池田　隆勝寺
7月24日（火）午前9時30分　午後1時30分
一色町対米　長壽寺
光闡坊　佐野　明弘師
加賀市
講　題　「信心なきものの救い」

◇**第14組　夏期真宗講座**
7月20日（金）
住職寺族の部　午前9時30分
碧南市千福町　千福寺
壮年の部　午後6時30分
芸術文化ホールシアターサウス
7月21日（土）午前9時30分
碧南市千福町　千福寺
同朋大学教授　安藤　弥師
講　題　「蓮如上人に学ぶ生きる力」

人　事

◇平成30年4月1日
赤羽別院列座就任
第8組宿縁寺
織田　顕慶師

訃　報

◆小原　慶正様
第13組・隆勝寺前住職
平成30年3月17日御命終
享年　83歳

◆藤井　賢祐様
第10組・榮安寺前住職
平成30年5月19日御命終
享年　84歳

謹んでお悔やみ申し上げます
合　掌

戒名と法名

戒名と法名の違いがよく分からないという問いかけをいただきました。

戒名とは、戒律を受けた者に付けられる名で、浄土真宗以外の宗旨で用いられます。

真宗大谷派（お東）では左記のように法名を受けます。

釋　○○（男性）
釋尼○○（女性）

法名の釋の文字は、お釈迦さまの弟子となる事を意味しており、○○に入る他の文字は、お経などから頂戴しています。

俗名（生前中の名前）に名前を付けてくださった方からの願いが込められているように、法名にも仏さまからの願いが込められています。

仏法聴聞し、南無阿弥陀仏という仏さまが私にどのような生き方を願っておられるのかを考える歩みがはじまるのです。

法名は、亡くなってからいただくのではなく、生前中にいただくのが良いでしょう。

文字数による階級はありませんが、

○○院　釋　○○
○○院　釋尼○○

というように院号法名があります。念仏の教えと本山を相続していくためご尽力下さった方々に院号がおくられます。

ナイスショット！

花まつりと白象

花まつりは、灌仏会（かんぶつえ）ともいわれ、お釈迦様の降誕をお祝いする法要です。

お釈迦様の生母である摩耶夫人は、お釈迦様がお誕生される前に夢の中で、6本の牙をもつ白い象が身体の中に入ってくる夢をみたと言われており、花まつりには、その故事にならい白い象が飾られます。

写真は本年の赤羽別院（一色仏教会）の花まつりにて撮影しました。

第18回 御坊俳壇・川柳

選者　三浦　貞葉氏他

俳　句（順不同）

梅檀の　木陰を借りて　立話　水頭うた子
風日和　桜しべ降る　城址かな　粕谷　弘子
新緑に　染まり仏跡　探りけり　藤原　寛
顔施てふ　ゆとりの心　朴散華　小沢　洋子
花御堂　釈迦の指より　甘茶かけ　原田　熙恵
囀を　聴くや寺領の　奥深く　石川　松葉
もぎたてを　稚のごと抱く　春大根　大溪　美恵
泥の田に　清らに咲ける　蓮の寺　平岩　芳魚
八重桜　日当たりながら　散り逝けり　伊藤由美枝
ゆるやかに　藍浴衣着る　風を着る　加藤　久子

川　柳（順不同）

早々と　拉致米人は　故郷へ　小林　千里
老人は　社会の隅で　胸をはる　斉藤　浩美
用意した　遺影写真が　若くなり　佐藤　哲也

お知らせ
定例の第19回御坊俳壇・川柳の締切は8月5日（日）です。

お寺の掲示板

人間とは自分で
自分の姓名を
仕切れぬ者の
別名である
高光大船
第十組・願正寺

作品募集　こども絵画コンクール

【募集作品】お寺やお内仏を描いた絵画
【対　象】小学生
【サイズ】四つ切り
もしくは八つ切り画用紙
【画　材】自　由
【応募先】赤羽別院
（又は各組暮らし部員まで）
【締切り】本年7月29日必着
【表　彰】各学年　金賞・銀賞

赤羽御坊新聞懇志
第17組　明法寺　様

貴重なご懇志を
ありがとうございました。

お詫びして訂正

赤羽御坊第54号1ページ鈴木聡師のプロフィール・4ページ「おぶくさん」ってなに?の記事中に誤りがありました。
謹んでお詫び申し上げ訂正致します。

誤	正
同朋大学　社会福祉学部	同朋大学　文学部
社会福祉学科卒	社会福祉学科卒

誤	正
仏に供える米飯	仏に備える米飯